



2011 年 9 月 12 日、第 17 回 IMADR 理事会開催（松本治一郎記念会館）。



2011 年 9 月 13 日、第 8 回 IMADR 総会開催（一ツ橋ホール）。午後は「災害と人権」をテーマにヒューマンライツセミナーを開催。

2011 年 9 月、理事会と総会終了後、国際理事はほぼ全員、関西方面へ移動。大阪府内の部落を訪問したり大阪人権博物館（リバティおおさか）を見学した。女性の理事たちは部落女性との交流会をもった。



2012 年 3 月、ジュネーブにて第 6 回 IMADR 執行委員会を開催。この年は全国水平社創立 90 周年でもあった。あらためて、マイノリティの権利と国連人権システムについてとらえなおす機会として、人権理事会会場で IMADR 主催のサイドイベントを開催した。

サイドイベントの会場。アイルランドのトラベラーズの NGO パービー・ポイントの代表も参加した。



2012 年 6 月、第 3 回マイノリティ女性フォーラムが沖縄で開催された。この年は沖縄本土復帰 50 年であったため、歴史を振り返るフォーラムともなった。

部落、アイヌ民族、在日コリアンの女性たちと沖縄女性たちが一堂に集り記念写真。

2013 年 1 月、IMADR は創立 25 年を迎えた。IMADR の発展に大きく寄与してきたアジア委員会（スリランカ）が中心になり、25 周年を記念するシンポジウムをコロンボで開催した。日本、インド、ドイツ、ネパールからの理事およびスタッフは、終了後、紅茶農園への視察や強制失踪被害者の家族とのミーティングなどを行った。

25 周年記念シンポジウムでプレゼンを行う IMADR 理事。



2013 年 5 月、ダリット女性たちが独自の表現手段をもち、発信できることをめざして、IMADR ビデオワークショップをインドのバンガロールで開催した。フェミニスト・ダリット協会（ネパール、FEDO）、農村教育開発協会（インド、SRED）、そしてスリランカから女性たちが集まり、座学と実践のプログラムを受けた。ほとんどの参加者はビデオカメラを回すのは初めてであった。

ネパールとスリランカの女性活動家たち。



2014 年 8 月、人種差別撤廃委員会（CERD）第 3 回日本審査がジュネーブで行われた。激しさを増すヘイトスピーチやデモが放置されたままであることに、CERD 委員たちは強い懸念をもった。この審査により、日本政府に対する包括的な差別禁止法制定を求める声は一段と高まった。

日本審査直前の NGO ブリーフィング。



2016 年 2 月、女性差別撤廃委員会（CEDAW）による日本審査がジュネーブで行われた。アイヌ女性たちは、アイヌ民族に関する政策決定のプロセスにアイヌ女性を含むよう求めた。

審査会場での NGO ブリーフィングでステートメントを読みあげるアイヌ女性たち。







2016 年 2 月、女性差別撤廃委員会（CEDAW）日本審査において、政府によるマイノリティ女性の実態把握がまったく行われていないことについて、強く訴える部落女性たち。

「I am Buraku woman（私は部落女性）」と書いたプラカードを示す女性たち。



2015 年から 2016 年にかけて、ヘイトスピーチやレイシズムに関して世論の関心が高まり、NGO の活発な動きや被害者の切実な声に押され国会が動き出した。2016 年 6 月に「ヘイトスピーチ解消法」が、12 月には「部落差別解消推進法」が施行された。

2016 年 3 月、人種差別撤廃デーで差別禁止の法制定を求める参加者たち。

2016 年 6 月の総会で、反差別国際運動（IMADR）と反差別国際運動日本委員会（IMADR-JC）は統合し、一つの組織になった。



2016 年 9 月、IMADR ラテンアメリカベースのマリオ・ホルヘ・ユーティスがアルゼンチンの青年たちに人権ワークショップを提供。



2009 年に長年にわたる内戦が終わったスリランカでは、戦争中から内戦後においても、多数の一般市民が強制失踪させられ行方がわからないままになっている。2016 年、スリランカ政府は失踪者の問題に対処する局（OMP）を設置する法律を制定した。真実と正義を求める被害者家族や市民が長い列をつくってマーチをした。

家族や友人を失った人びとが多数参加した。IMADR アジア委員会はこの問題に長くかかわっている。

沖縄・辺野古での米軍基地建設に反対する集会への弾圧や、新聞報道に対する規制について、表現の自由に関する国連特別報告者のデビッド・ケイさんは人権理事会提出の報告書にまとめた。2017年5月、IMADRは人権理事会会場において、デビッド・ケイさんと沖縄平和運動センター議長の山城博治さんを招いたサイドイベントを開催した。

2017年5月、サイドイベントで報告をするデビッド・ケイさん。



2017年11月、ネパール・フェミニスト・ダリット協会（FEDO）のバルサ支部の女性たちが、女性差別撤廃を求める横断幕をもって地元の村をマーチした。バルサ支部では浄土宗平和協会の支援とIMADRの協力をえて、女性に対する暴力をなくすためのプロジェクトを実施している。

2017年11月、女性たちがこのように外で意見を表明することは数年前までは考えられなかったとFEDOのオフィサーは述べている。



2018年4月、世系に基づく差別撤廃のための国際会議を、IMADRは国連高等弁務官事務所と共催で開催した。インド、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、そして日本からNGOの代表が集まった。国連からは元マイノリティ問題特別報告者のリタ・イザック・ンジャエさんが参加した。

4月9日の国際協議会の参加者全員で（大阪国際交流センター）。



2018年4月12日、世系に基づく差別撤廃のための国際シンポジウムを衆議院議員会館で開催した。世系に基づく差別という概念が日本のなかで少し広がった。与野党の国會議員、メディア、NGO、一般市民から多くの方が参加した。国連と市民社会の協力による差別撤廃の実現に向けて、さらに一歩踏み出さなくてはならない。

4月12日のシンポジウム。参加者の方々の熱心さと関心が会場を包んだ（衆議院第1議員会館）。

